
教育総合センター だより

NO. 103

平成19. 3. 1

尼崎で育つ

尼崎市教育委員会
教育相談課長 大 龍 雅 子



尼崎で教職に携わり33年、その大半は子育てをしながらの教員生活だった。その息子たちも成人し、今は子どもを持つ親となっている。「人は人によって育てられる」と言われるが、息子たちは尼崎の先生や地域に育てられ、成長したと感謝している。保育所から中学校まで二人の息子がお世話になった先生は担任だけでも延べ30人に上る。この先生方のうち、一人の先生が欠けても、今の息子は存在し得なかったと思っている。

長男が保育所に通っている頃、いつものことながら保育時間終了ぎりぎりに迎えに行くと、先生が「お母さん、この子が絵を大きく描けないのが気になったので、今日は画用紙いっぱい元気よく描けるように個別指導しました」と言って、長男が描いた絵を見せてくれた。決して上手ではないけれど、画用紙いっぱいに自画像が描いてあった。「職場の子どもばかりでなく、しっかりと自分の子どもも見つめなさいよ」と仕事ばかりしている母親へのベテラン保母さんからの忠告だったように思う。

息子たちが小学生のとき、休日は、息子の少年野球チームを車に乗せて、色々なグラウンドに試合に行った。やがて親から巣立っていく息子たちを今しっかり見つめておこうと思い、毎週末、グラウンド

に通った。入団当初、野球より虫取りに熱中していた二男は、監督やコーチの指導により、ユニフォームの似合う野球少年に成長した。当時の少年野球の監督は今も地域の子どもたちを指導し、見守ってくれている。頭の下がる思いである。

長男は中学生のとき、野球部に所属していた。運動神経は悪いほうでないが、レギュラーにはなぜかなれない部員だった。「もっとしっかり頑張ってよ」と思うこともあったが、今になって考えてみれば、中学校のほとんどの先生が両親を知っているの、先生は両親のスパイとでも思っていたのかもしれない。思春期の真っ只中で、しかも学校でも両親の束縛から逃れることができない長男を救ってくれたのは、野球部の顧問の先生だと思う。先生は、人生の先輩として、長男の相談にいろいろと乗ってくれたのだろう。その恩師に憧れて、今、長男は母校の小学校で勤務している。

子育て中は、息子たちのためにも、いい加減な仕事はできないと私なりに一生懸命仕事をしてきたつもりでいる。子育てを卒業した今は、子どもたちと共に育てていただいた尼崎のために、恩返しをしたいという思いで、目の前の山積みされた課題に取り組んでいる。

☆☆☆近畿地区教育研究(修)所連盟 研究発表大会に参加して☆☆☆

□ 豊かな自然を育む琵琶湖にて

平成 18 年 11 月 2 日(木)、滋賀県総合教育センターにおいて、「平成 18 年度近畿地区教育研究(修)所連盟研究発表大会」が開催されました。

ここで滋賀県の紹介を少し・・・

滋賀県といえば近畿 1400 万人の水道水源『琵琶湖』があまりにも有名です。観光客が年間 4,000 万人(平成 16 年度)を超える貴重な観光資源である琵琶湖は、約 400 万年前に、現在の三重県伊賀上野地方の盆地のくぼみに水がたまり、初めて姿を現しました。その後、地殻の隆起や沈降といった変動を繰り返し、形や大きさ、位置を変えながら現在の姿になったそうです。その琵琶湖では、ビワマス(別名アメノウオ)、ニゴロブナなど 50 種以上の固有種が生息し、ふなずしやしじみ汁、小鮎やアメノウオの甘露煮など琵琶湖特有の食文化を育んできました。(滋賀県HPより)

さて、午前中の全体会では、琵琶湖で生まれ、琵琶湖の豊かな自然を撮り続けている写真家今森光彦氏の講演を聴かせていただきました。琵琶湖とともに生活している人々や琵琶湖の自然の中で力強く生きる動物たちの写真をスライドで見せていただきました。それらは繊細かつ雄大なものであり、今森氏が琵琶湖を愛し、琵琶湖とともに生きてこられたことを強く感じました。すばらしい講演も終え、いよいよ午後の研究発表の時間がやってまいりました。



□ 研究発表会において

研究発表会には、近畿各地から 130 名以上の参加があり、5 分科会に分かれそれぞれ 3 グループの研究発表が行われました。第 1 分科会の発表の最後を締めくくるのは、尼崎市立教育総合センターの研究員、真殿康正 教諭(南武庫之荘中)と 竹内義明 教諭(武庫南小)です。二人は平成 16・17 年度の 2 年間、常見一彦 教諭(難波小)、増田亨 教諭(大成中)、阿部保彦 指導主事(現・学校教育課)とともに「小・中連携による算数・数学の基礎力定着」というテーマで、図形指導における円周率の定着率調査を研究してきました。研究内容の要約は次のようなものです。

小学校 6 年、中学校 1・2 年を対象に、図形に関する全く同じテストを実施した結果、円周率の

意味が理解できていないことが分かりました。授業研究や個別指導を繰り返す中で、そのつまずきのポイントは、円周の長さが 16π cm の時に直径を求めることができるかどうかにあることを発見しました。詳しくは、尼崎市立教育総合センター紀要第 43 号研究報告書(H18.3)をご覧ください。

発表は、簡潔・明瞭なプレゼンテーションを行い、参加者からの質問にも的確に応答するなど堂々たる内容でした。発表後、「良い取り組みですねえ」と参加した先生方から称美の言葉をいただくことができました。大きな大会で発表した二人からは、次のような感想をもらいました。

「自分のやってきたことが認められて良かった。また、他の研究を聴いて今後の研究に役立つことを学ぶことができた」(真殿教諭)

「質疑応答などから自分分からなかったことを教えていただいた。また、他府県の先生と知り合いになることもできた」(竹内教諭)



□ 研究発表会を終えての感想

多くの先生方が研究に取り組み、また、それを熱心に聴いている様子を見て、「自分も勉強せなあかなあ」とつくづく感じました。

教育再生会議の第一次報告(H19.1)では、7 つの提言のひとつに教員の質の向上が盛り込まれました。教員の質とはどのようなものなのでしょう。

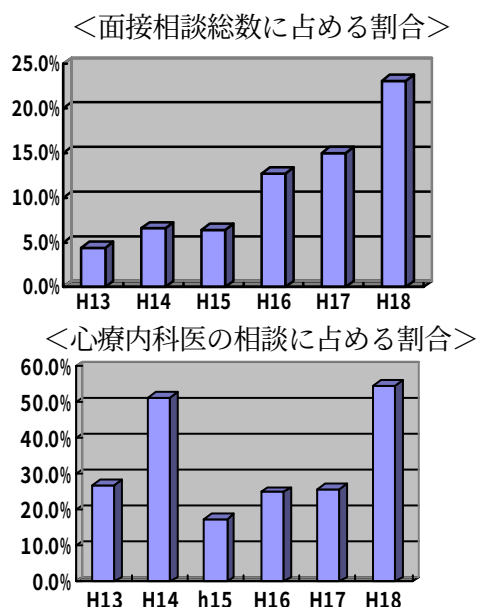
私たちは、日々子どもと繰り返し教育活動を通して貴重な経験を積んでいきます。経験から得た実践力は力強いものです。しかし、時として、「自分はこうやってきたんだ」という独りよがりになっていないでしょうか。それを見直す機会が研修だと思います。研修によって幅広い教養を身に付け、実践の裏付けとなる理論を学ぶことができるのです。今、求められる教員の質とは、このような研修と実践を幾度となく往復し、絶えず自分の実践を振り返ることができる柔軟な感覚を持つことではないでしょうか。自己研鑽を続け、いつまでも成長し続ける教員でありたいものです。

(研修担当指導主事 鈴木 美臣)

☆☆軽度発達障害を抱える子どもへの支援－診断をめぐって－☆☆

1 軽度発達障害がらみの相談が増加

平成 13 年度、軽度発達障害が疑われる子どもの相談が面接相談総数に占める割合は 4.4% であった。しかし、平成 18 年 12 月末現在では 23.1% に達している。



2 授業場面での子どもたち

教室では、担任が整然と授業を進めるなか、窓から出たり入ったり、廊下にある靴箱の上に寝そべったりと動き回る 2 年生男児、図書室に入るやいなや本棚の上に登り、棚から棚へと飛び回る 3 年生男児、教室に入っても机に座り周囲の子どもにちょっかいをかける 2 年生男児等の姿があった。担任にとっては、授業を進めつつ学級全体の子どもを指導し、同時にこれらの子どもへの個別対応も迫られるという非常に困難な状況である上に、保護者からの苦情も増えてきており、今後の対応が難しいと予想された。また、診断を受けた保護者の中には、“子どもの特性に応じた教育をして欲しい”と学校に要望する声もあり、担任や学校から、子どもが安心して学べる環境の確保のため授業を補助する人が欲しいという声が強かった。

3 「心の教育特別支援員」の取り組み

平成 15 年度から LD・ADHD 等特別な教育的配慮を必要とする児童が在籍する小学校に「心の教育特別支援員（補助員）」を配置する事業を開

始した。

これまでの成果としては「着席行動が増えた」「落ち着いて課題に取り組むようになった」「級友とドッジボールができるようになった」など対象児の行動・学習・対人関係面での改善に加え、担任が保護者や支援員、医療機関等と連携してチームで支援する事例もあった。また、効果的であった対応の例としては「個別の声かけ」「がんばり表（項目を決めできたらシール、毎週 1 回振り返り）」などがあった。

課題としては、効果的な指導法の模索や担任との有機的な連携、支援員の研修体制の確保、保護者への啓発活動が挙げられる。

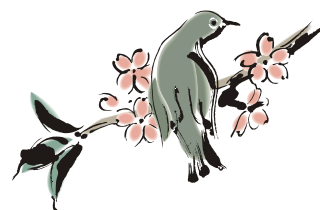
4 診断をめぐる光と影

軽度発達障害については早期発見・早期対応の重要性が叫ばれている。また、診断はよりよい支援の始まりとも言われる。しかし、軽度発達障害の診断は十分な問診や鑑別診断が必要であり、専門医も少なく難しいといわれる。今後、早期発見のシステムが整備され、機能することが急がれる。

現状では、周囲の者が軽度発達障害の可能性に気づいたとしても、本人や保護者を医療機関へつなぐことが難しいケースも多い。また、診断を受けたとしても、すぐに保護者がその診断名を受け入れ、子どもの特性を充分理解するとは限らない。診断を受けたことによって保護者や家族が混乱し、必要な支援につながらない事態も生じる。本人だけでなく保護者に対する支援も重要である。診断に頼り、家庭の養育の問題や学校内の対人関係、学校文化等の問題を見逃してはならない。

ユニークな考え方や元気がよすぎる子どもに対して、安易に診断名を当てはめ決めつけるのではなく、診断があったとしても、その子の独自の思考や行動の特性を活かし、よりよい学校生活ができる支援のあり方が求められている。

（教育相談担当係長 西本由美）



教育情報コーナーへどうぞ

情報コーナーには、教育のカタイ本ばかりでなくこんな本もあります。
今回は、そんな本を紹介いたします。

子どもから大人まで楽しめる本。心とからだの栄養に

☆『時と歩こう』全10巻 ～時の味わい、その奥深さを発見できる魅力的な時の数々

- ①茨木のり子詩集 ②吉野弘詩集 ③辻征夫詩集 ④新川和江詩集 ⑤大岡信詩集
⑥石垣りん詩集 ⑦まど・みちお詩集 ⑧岸田衿子詩集 ⑨川崎洋詩集 ⑩谷川俊太郎詩集

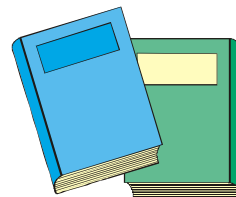
☆『新・ゆびあそびシリーズ』全10冊～ゆびを使うことは脳に刺激を与え脳を活性化

- ①ゆびで編む～マフラー・ぼうし ②ゆびで編む～小物たち ③ゆびのからくり
④ゆびで結ぶ ⑤チラシであそぶ ⑥割りばしであそぶ ⑦紙コップであそぶ
⑧水であそぶ ⑨折ってあそぶ ⑩ポップ・アップ



☆『Japanese Folk Tales 英語で読む日本むかし話』全5冊 ～よく知られているお話を英語で読もう

- ＊ Urashima Taro and the Palace of The Dragon (浦島太郎)
＊ The Snow Woman (雪女)
＊ The Story of The White Crane (鶴女房)
＊ My Snail, My Snail, My Husband (たにし長者)
＊ The Marriage of the Young Mouse Girl (ねずみの嫁入り)



☆『調べて、まとめて、コミュニケーション』全5巻～言葉の力を高めましょう

- ①ことばの不思議ベスト20 ②疑問調べ大作戦 ③めざせ！編集長
④発表・討論チャンピオン ⑤ことば遊びチャレンジ20



☆胸をうつ言葉。心にのこるスピーチ。ぜひ一読を。

- ・『東井義雄賞 いのちのことば(第二回)』
～私を立ち上がらせてくれた母のあの一言』
- ・『東井義雄賞 いのちのことば(第三回)』
～私に勇気と自信を持たせてくれた父親のあの一言』 但東町・豊岡市教育委員会編
- ・『親から子へ伝えたい17の詩』 長田 弘他編
- ・『これから社会に出るきみへ～有名人が贈る60の勇氣』 エドワード・ホフマン編

紹介の「本」は情報コーナー入口の新刊紹介コーナーにあり、貸出しもしております。
係までどうぞ。
必要な図書、資料等のお問い合わせ、教育に関する文献相談、照会等にお応えしております。
お電話でもお受けします。お気軽におたずねください。

(TEL 6423-3400 担当 幾田まで)

開館時間のご案内 平日 午前9時～午後9時 (ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分までとします。) なお、次の日は取り扱いいたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】	発行 尼崎市立教育総合センター 尼崎市三反田町1丁目1-1 (TEL. 06-6423-3400) 発行者 神田 光 題字 尼崎市教育委員 岡本 元興
---	---